

## 特別史跡名古屋城跡 本丸内堀発掘調査の概要

現在、名古屋市では現天守閣を解体する現状変更許可を文化庁に申請しております。それに対して文化庁から頂いた指摘事項に対応し、本丸内堀の現状を把握するため、発掘調査を行っています。その調査成果の概要は以下の通りです。

調査期間 令和2年11月13日～現在実施中

調査地点 本丸内堀内4地点（W～Zトレンチ）次頁図2参照

調査面積 合計約90㎡（予定）

### 調査成果の概要

W～Zの4トレンチのそれぞれにおいて、石垣の築石の可能性が考えられる大型石材が並んでいる状況を確認しました。各石材は、北側に位置するW及びXトレンチのものは北側に、南のY及びZトレンチのものは南側に面を持っています。WとXトレンチの石列、YとZトレンチの石列はそれぞれ同一直線上に位置しており、またこの北と南の直線は約25mの間隔で平行しています。

こうした特徴から見ると、これらの石列は、石垣を持つ何らかの建造物の基礎部分にあたると思われ、その北辺と南辺の可能性が考えられます。

### 検出された石列について

名古屋城の天守の縄張は、その計画段階で何度か変遷があり（図1参照）、その初期には、大天守西側に、もう一つの小天守を建設する計画があったことが知られてきました（図1の（1））（城戸久ほか1959『名古屋城史』、内藤昌ほか1985『名城集 成名古屋城』、千田嘉博2013『天下人の城』、高田祐吉2001『名古屋城』等で研究されています）。

検出した石列の位置や築造時期などから考えると、今回見つかった石列は、こうした当初計画に基づいた建造物に関連したものの可能性があります。

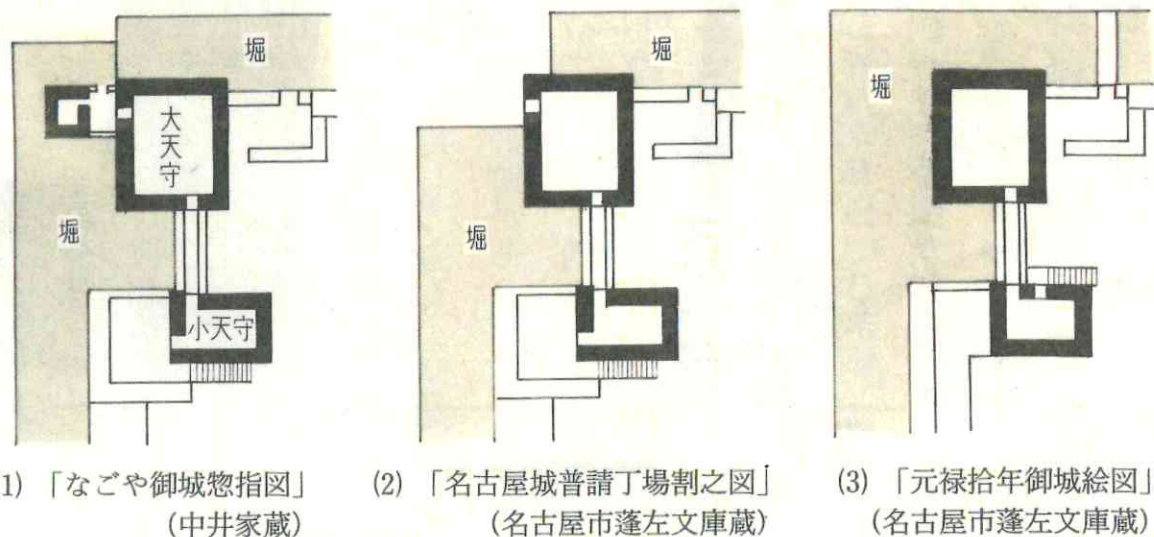


図1 天守縄張計画の変遷図

『新修 名古屋市史 第三巻』(1999)より引用

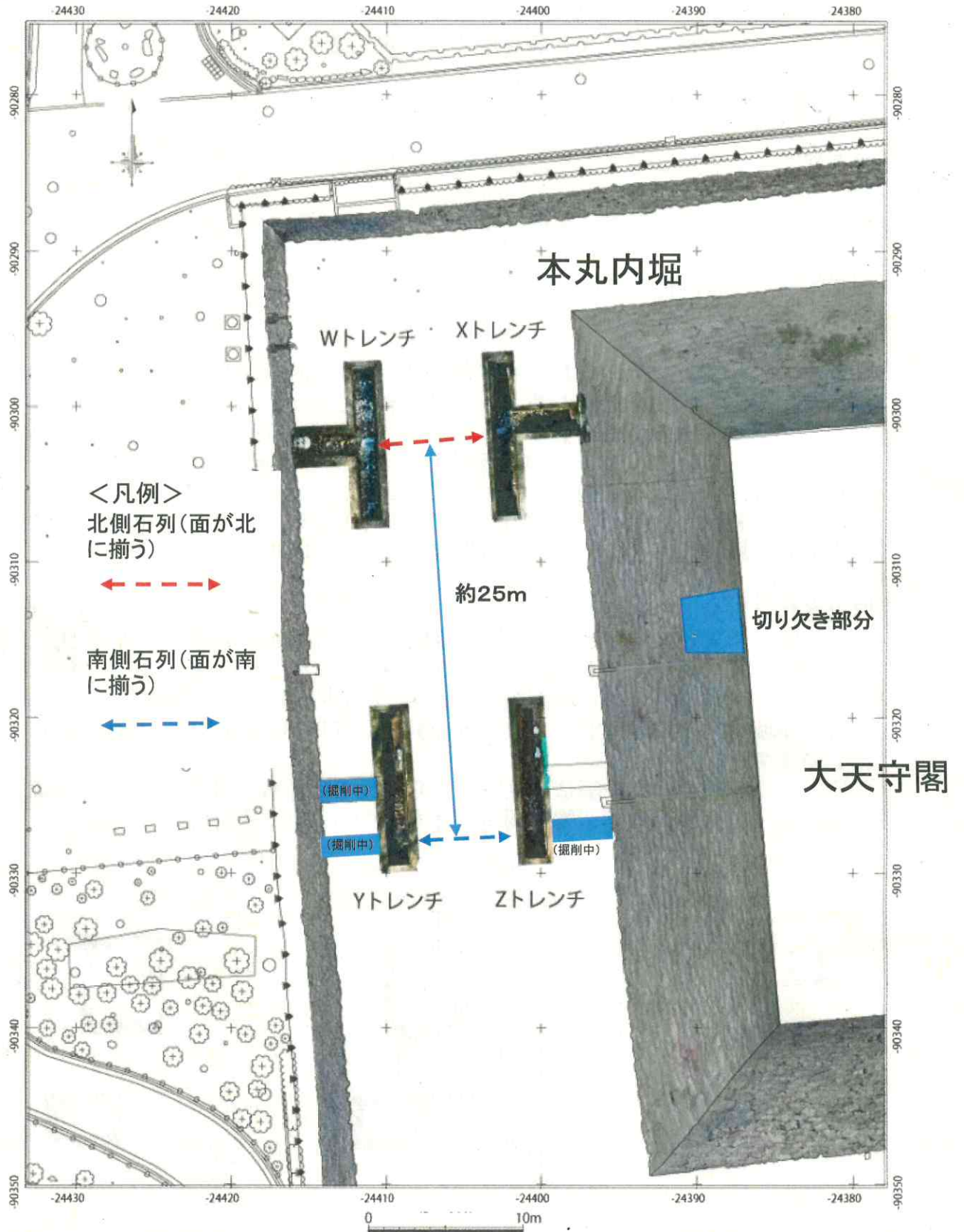


図2 調査区トレンチ位置と遺構面写真：約1/400





写真1 Xトレンチ  
石列検出状況(西から)  
正面石垣は大天守台西壁



写真2 Wトレンチ 中央付近  
石列検出状況(東から)  
正面石垣は御深井丸側石垣(U66石垣)